

令和3年度 日野市平和事業

平和派遣事業成果報告書

< 沖縄・長崎・広島 >



日 野 市

目次

1 平和派遣事業の趣旨・目的.....	1
2 平和派遣事業概要.....	1
3 平和派遣事業報告会.....	1
4 広島伝承者平和講話会.....	2
●派遣者発表 沖縄	
東光寺小学校 3年 廣門 来輝さん.....	4
東光寺小学校 5年 治 達夢さん.....	6
●派遣者発表 長崎	
日野第四中学校 1年 勝川 日菜子さん.....	10
●派遣者発表 広島	
仲田小学校 4年 大石 誠也さん.....	16
日野第六小学校 5年 古堅 琉美花さん.....	19
日野第五小学校 5年 金田 知賀子さん.....	22
豊田小学校 5年 北村 紗也さん.....	26
日野第一小学校 6年 堀 結依菜さん.....	30
日野第四中学校 2年 佐野 敬磨さん.....	33
来場者アンケート.....	37
日野市民憲章／日野市核兵器廃絶・平和都市宣言.....	40

1、平和派遣事業の趣旨・目的

平成 26 年から始まった日野市平和派遣事業は、第二次世界大戦下で多大な戦火に遭った「広島」「長崎」「沖縄」の各所に、市内在住の小中学生及びその保護者を派遣し、平和について学んでいただく事業です。

また、学んでいただいた内容を発信し、広く市民と共有していただくことで、二次的な平和意識の伝播を促進し、日野市民全体への平和意識の啓発を図っています。

2、平和派遣事業概要

派遣期間 令和 3 年 7 月～10 月

派遣先 広島、長崎、沖縄

派遣者 下表のとおり

(発表順、敬称略)

派遣先	派遣児童生徒	保護者
沖縄	廣門 来輝	廣門 一禎
	治 達夢	治 達人
長崎	勝川 日菜子	勝川 実
広島	大石 誠也	大石 七重
	古堅 琉美花	古堅 みずき
	金田 知賀子	金田 典子
	北村 紗也	北村 直子
	堀 結依菜	堀 佐由香
	佐野 敬磨	佐野 祥江

3、平和派遣事業報告会

お集まりいただいた皆様に、派遣された皆様の思いを発表していただきました。発表された生の声に、参加者はそれぞれ平和への思いを馳せました。

日 時 令和3年11月14日(日)

会 場 多摩平の森ふれあい館 集会室6



4、広島伝承者平和講話会

平和派遣事業報告会と同日に開催。広島市から被爆体験伝承者の方を招き、被爆体験者から受け継がれた貴重なお話を伺う講話会を開催しました。

日 時 令和3年11月14日(日) 15時 00 分から 16時 30 分まで
場 所 多摩平の森ふれあい館 集会室6
講 師 被爆体験伝承者 水野 隆則 (みずの たかのり) さん
参 加 費 無料
参加人数 68名

被爆体験伝承者 プロフィール

水野 隆則(みずの たかのり)氏

- ・被爆体験伝承者 1 期生、両親を含め親族 7 名、直接被爆
- ・母(86 歳)は現在、原爆療養ホームにて「語り部」活動を実施
- ・会社員を経たあと、52 歳より 4 年間大学等において「介護福祉・臨床心理学」等を学びながら、母の一言に触発され、3 年間にわたる被爆体験伝承者研修を受講し、2015 年 3 月広島市より「被爆体験伝承者」に認定され、同年 4 月「公益財団法人広島平和文化センター」より「被爆体験伝承者」として委嘱される。



● 派遣者発表 《沖縄》



1 東光寺小学校 3年 廣門 来輝さん

特攻隊員だったひいおじいちゃんや満州に住んでいた経験のあるひいおばあちゃんから、お母さんはよく戦争の話を聞いていたそうです。お母さんはその事を僕によく話をしてくれています。実際に戦争があった場所には行ったことがなかったので、もっと戦争のことについて詳しく知りたいと思い平和派遣事業に参加させていただきました。お父さんから沖縄にはすごく綺麗な海があることや日本で唯一地上戦が行われた場所ということを知り、沖縄県に訪問することにしました。

緊急事態宣言下で、受け入れてくださる施設も限られていましたが、僕たちは「ひめゆり平和資料館」を訪れました。資料館では、ひめゆり学徒隊の生存者の方が当時の話をしている映像を見ることができました。防空壕の中での腐敗した体による異臭のことや死ぬ思いで水を汲みに行かされていたが、食料不足や水不足で困っていたこと、政府に日本が優勢であることを信じこまされ戦地に向かわされたこと、毎日、腐った足や手を切り落とす手伝いをしたこと、死にゆく兵隊さん達が「天皇万歳」と言って死ぬと聞かされていたが、皆家族の名前を呼んでいたことなど、経験した人からしか聞けない貴重なお話を聞くことができました。また、資料館の中には空爆の様子や地上戦についての展示もあり、どこにいても死んでしまうことや建物などが簡単に破壊されている様子を知って、恐ろしさを感じました。

僕が今、当たり前前にできている食事や勉強やふかふかの布団に寝ることなども戦争が起こるとできなくなってしまうのだなあと思いました。そして、戦争の悲惨さをよりリアルに感じることができ、哀しみが溢れると同時に、戦争は絶対にしてはいけないということを改めて感じました。

今、日本の近くの国ではミサイルを打つ実験をしていたり、中東などでは空爆が行われているところがあったり、また戦争が始まってしまうのではないかと心配になりますが、戦争にならないように僕ができることを考えていく良い機会になりました。なるべく多くの方に、僕が体験したことをお伝えしていきたいですし、将来、どうやって僕が役に立てるのかを考えていきたいと思いました。



2 東光寺小学校 5年 治 達夢さん

僕は、歴史が大好きで、よく歴史の本を読んだりしています。僕には今年で102歳になるひいおじいちゃんがいる、元日本兵です。よくひいおじいちゃんは、僕に戦争のことを教えてくれます。沖縄では、僕と同じ10代の人たちがなくなったと知り、沖縄に行ってより詳しく学んでみたいと思いました。

沖縄では、最初に旧海軍司令部壕に行きました。ここには、太平洋戦争の時に、日本海軍沖縄方面根拠地隊司令部がありました。沖縄県は、国内において地上戦が行われた唯一の場所です。そのため多くの県民が戦争に巻き込まれ、たくさんの犠牲者が出たところです。旧海軍司令部壕でも、多くの兵士や徴兵された住民らが、戦い、傷つき、倒れていきました。僕は、この場所で手榴弾で自決した痕跡を見て、命を自分で絶つか、敵に殺されるかなんてとても悲惨だなと思いました。

次に僕が行ったのは、平和祈念公園です。ここには、太平洋戦争・沖縄戦終結50周年を記念して建設された記念碑の平和の礎があります。沖縄の「平和の心」を広く伝え、世界平和を願う目的で作られています。平和の礎には、沖縄戦などで亡くなられた人全ての氏名が、国籍や軍人、民間人区別なく刻まれています。24万人を超える人の名前が記されていて、こんなにたくさんの人が亡くなったと知り、とても悲しい気持ちになりました。

最後に行ったのは、ひめゆりの塔、ひめゆり平和祈念資料館です。ひめゆりの塔は、沖縄戦の末期に沖縄陸軍病院第三外科が置かれた壕の入り口に建てられています。ひめゆり学徒隊は、沖縄県立師範学校女子部と沖縄県立第一高等女学校の生徒たちを動員して編成された看護部隊です。200人以上の教師や生徒が、砲弾にあたり、自決したりして命を落としました。

資料館には、ひめゆり学徒隊の遺品、使用した医療器具などが展示してありました。自決した時に使用した手榴弾まで展示されており、当時はとてもひどい状況だったという事がわかりました。僕と同じ10代の人や殺されたり、自決したのは本当に悲しいです。

今僕が生きている幸せな世界は、このような大きな失敗から学んで、二度と同じ過ちを、くりかえさないようにしているおかげだと感じました。僕が学んだ事を友達に伝えたりすることで、戦争の悲惨さが多くの人に伝わり、世界平和につながると感じました。僕はこれから、多くの人に平和について伝えていきたいです。



● 派遣者発表 《長崎》



3 日野第四中学校 1年 勝川 日菜子さん

私は、本派遣事業に応募したものの、「平和とは何か」と聞かれても、今の毎日が当たり前な状況で生まれてきているため、ありきたりの言葉を並べることしかできないことに気付かされました。そのため、平和でなかった日本、特に太平洋戦争で悲惨な経験をした場所のうち、長崎を視察先とし、そこで起こった史実を学ぶことで答えを見つけたいと思いました。

まず、最初に「長崎原子爆弾落下中心地碑」のある爆心地公園に行きました。公園内はとても静かでゆっくりとした時間が流れているように感じ、原爆が落下したとは思えないような場所でした。しかし、今、自分が立っているこの場所を中心にして、たった一発の原爆で約15万人もの死傷者を出す大惨事となったことを知り、原爆の恐ろしさを感じました。

次に、「長崎原爆資料館」に行き、長崎市の特徴や原爆が投下されるまでの経緯に始まり、当時の様々な写真や展示物を交えながら、詳しい原爆の威力と被害状況、被爆者の証言、後遺症の発生と差別など、生々しい事実を知ることができました。特に印象に残ったこととして、2つあり、1つ目は、原爆の熱線の直射を受けた人の影が壁に残っていた写真で、熱線の凄まじさを物語っていました。2つ目は、終戦後の復興の陰で、被爆者は新たに後遺症や差別との長く苦しい戦いを強いられていたことであり、彼らにとっての終戦、心の平和は訪れていなかったのだらうと思いました。

原爆資料館を出た後は、被爆当時のものが現存されている場所に足を運び、一本足となった「山王神社二の鳥居」や吹き飛ばされて落下した「浦上天主堂 鐘楼ドーム」を見学し、爆風の威力の大きさに驚かされました。また、山王神社の境内には、緑豊かに雄大な姿で立つ「被爆クスノキ」があり、原爆資料館で見た被爆当時の枯れ木同然となった写真を思い出し、生命力の強さを感じました。さらに、山里小学校の裏手にひっそりとある「旧山里国民学校防空壕」は、平和を語り継ぐ場所として残されており、私と年齢の近い多くの生徒が自宅などで犠牲となっていることを知り、切なくなりました。

その後は、視察の最後の場所として、平和祈念像がある「平和公園」に行き、長崎を訪れるにあたって事前に本を読んで学んだこと、そして、実際に長崎を訪れて学んで感じた思いを胸に、祈念像の前で手を合わせ、世界の恒久平和を心から祈りました。

今の長崎市には多くの建物が立ち並び、人が行き交い、被爆直後は焼け野原とガレキの山しかなかったと感じさせない時間が流れており、「被爆クスノキ」の生命力のごとく、人間の復興する力強さを感じ取ることができ

ます。しかし、市内をよく見ると、原爆の爪痕が残されていて、被爆の史実を知る場所や恒久平和を祈る場所が多々あり、後世に伝えようと訴えかけています。その一方で、戦後生まれの人が大半を占め、今の生活からかけ離れた遠い過去の話となるため、原爆投下日や終戦記念日に各地で黙祷を捧げている、その意義が時代の経過とともに薄れる恐れがあります。また、戦争体験者が年々減ってきていることも相まって、痛ましい戦争の記憶や教訓の風化が心配されます。そこで、多くの犠牲を伴って手にした今の平和を守り、維持し続けていくために、後世にその意義を伝えていくことが最大の課題になりますが、若い世代の我々が担い手となって、史実を学び、確実に伝えていく使命があると考えます。

最後に、本派遣事業を通して感じたこととして、戦争や原爆について、人に聞いたり、本で読んだりして多少は知っていましたが、実際に被爆した現地に足を運ぶことに大きな意味があったと思います。なぜなら、今の平和な日本の姿からは到底想像できない戦争や原爆がもたらした当時の様子を幅広く知ることができただけでなく、実物を見たり、その土地に立つことで感じられるものがあったりして、一言では言い表せない様々な感情が芽生えたからです。そして、冒頭の「平和とは何か」という問いに、「今の平和はどのようにして手に入れたのか」という問いを加え、それらの答えを見つけることができたと思います。今後は、学んだことを活かし、恒久平和を祈る意義について、後世に語り継いでいけるよう働きかけていきたいです。

◆爆心地公園（長崎原子爆弾落下中心地碑）



とても静かな公園。遠くに見えるのが長崎原子爆弾落下中心地碑で、この上空約500mで原爆が炸裂し、約15万人の負傷者を出す大惨事となった。

◆長崎原爆資料館



原爆が投下されるまでの経緯に始まり、被爆当時の写真や展示物を交え、詳細な被害状況やその後の後遺症など数多くのことを知ることができる。

◆山王神社二の鳥居（一本柱鳥居）



爆風の威力を物語るものの1つとなっている。一本足立ちとなりながらもバランスを保って立ち続ける姿に、驚きと同時に力強さを感じる。

◆浦上天主堂 鐘楼ドーム



手前が被爆当時の鐘楼ドームで、奥が現在の天主堂。この位置まで原爆の爆風によって吹き飛ばされて落下しており、その威力を物語っている。

◆旧山里国民学校防空壕



小学校の裏手にひっそりとあり、平和を語り継ぐ場所として残されている。8月9日は夏休み中で、約1300人も生徒が自宅などで犠牲となった。

◆被爆クスノキ



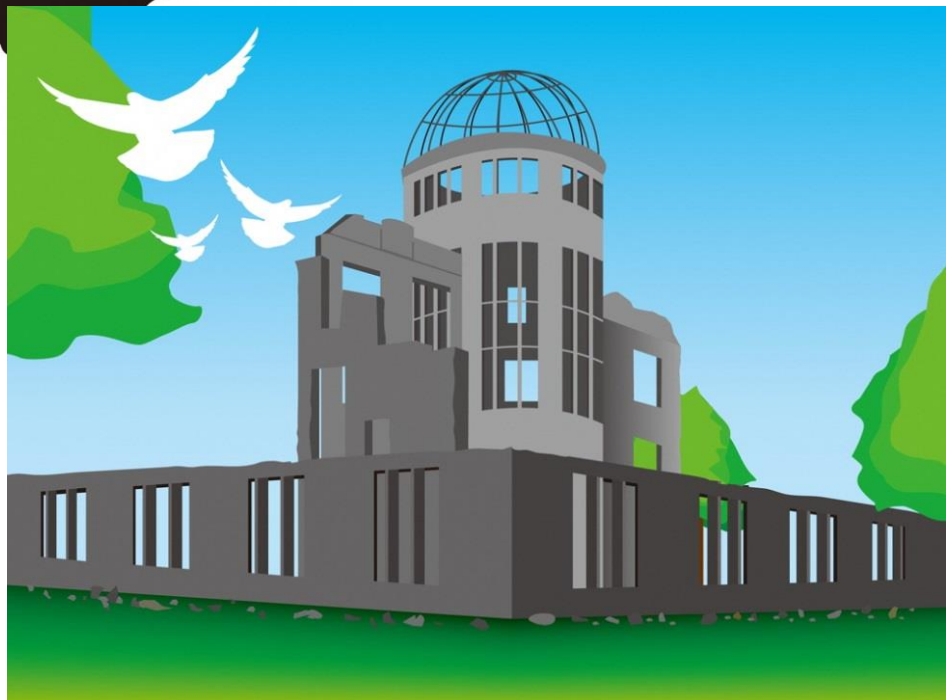
被爆当時の枯れ木同然の写真からは到底想像できない、緑豊かで雄大な姿に蘇っており、生命力の強さを感じられる。

◆平和祈念像（平和公園）



天を指した右手は原爆の脅威、水平に伸ばした左手は平和を表現している。長崎を訪れて学んで感じた思いを胸に、世界の恒久平和を心から祈った。

● 派遣者発表 《広島》



僕は、10月23日から25日まで、広島県にある平和記念公園と、呉市の大和ミュージアムに行きました。

「戦争なんかもうしたくない」

そんな思いを胸に、平和記念公園では、慰霊碑や平和の火の前でお祈りをしました。慰霊碑には、「安らかに眠ってください 過ちは繰り返しませんから」と刻まれていました。平和の火は、昭和39年に点火されてからずっと燃え続けていて、核兵器が姿を消す日まで燃やし続けるそうです。

その後、原爆で亡くなった方々の遺影がたくさんある「国立平和原爆死没者追悼平和祈念館」というところへ行きました。そこにはいろいろな遺影があり、うれしそうな顔をしている人もいて、そんな人を見ると、胸が苦しくなりました。

次に、平和記念資料館の中へ入りました。そこでは、いろいろな人の苦しそうな写真や、いろいろな人のストーリーがありました。中でも、お弁当を楽しみにしていた男の子が、原爆の被害にあってお弁当が食べられなくなったうえに、自分の命も無くしてしまったことが、心に残りました。

そして、原爆ドームに行きました。残念ながら中には入れませんでした。原爆の凄惨さがよく伝わりました。

それから、呉市の大和ミュージアムにも行ってきました。

そこでは、主に日本海軍が海上戦争のときに使った船、大和のことについて詳しく説明されていました。大和は昭和16年(1941年)に、呉で製造された戦艦です。しかし昭和20年(1945年)4月7日に、沖縄に向かう途中で攻撃を受け沈没し、3000人以上の乗員の方が亡くなったそうです。戦争では、海でもたくさんの人たちが亡くなったことがわかり、亡くなった方々とその家族の人たちの苦しみを思うと胸がしめつけられました。

僕は、この旅行に行く前から、広島に原爆が落ちてたくさんの方が亡くなったのは知っていました。けれども、原爆が落とされた跡や亡くなった方の写真や遺品などを自分の目で見て、戦争はひとりひとりの命や家族の生活を、一瞬で奪ってしまったのだと思いました。そして、僕が好きな野球をしたり、学校に行ったり、友達と遊んだりしている普通の生活が、実はとても幸せなことなのだとも思いました。これからも平和な生活が長く続くように、自分にできることを考え、努力していきたいです。





私は、平和派遣事業で広島に行きました。そこで、見たこと感じたことについて報告していきたいと思います。

① 原爆死没者追悼平和祈念館

ここでは、「追悼空間スロープ」といって時計の針と逆回りに回って下っていくことにより、被爆日時へと時間をさかのぼっていける場所があり、私も下ってみました。また、原爆供養塔納骨名簿を見ました。一つの爆弾で沢山の人が被爆したことを忘れないことが大切だと思いました。

② 広島平和記念資料館

資料館では、被爆する前の広島の街と被爆後の広島の街が模型とプロジェクションマッピングで表現されている展示を見ました。被害の範囲がかなり広い事が分かりました。

原寸大の原爆の模型も展示されていました。被害の大きさから考えるともっと大きい爆弾かと思っていましたが、意外と小さくてびっくりしました。

現在世界では、約 13,000 個の核弾頭があるそうです。約 3メートルの小さい爆弾だけれど、あれほどの威力を持っている核弾頭がそれだけあるということは、もし今後核戦争がおきたらどれだけの被害が出るのでしょうか。それを考えると絶対に核戦争を起こしてはいけないと思いました。

③ 原爆ドーム

原爆ドームは 1996 年に世界遺産に登録されました。原爆ドームは元々、広島県物産陳列館として使われていましたが、原爆により崩壊されてしまい、今は骨組みや少しの壁などしか残っていません。原爆があったことを伝える象徴的な建物なので大切に保存していく必要があると思いました。

④ 大和ミュージアム・てつのくじら館

大和ミュージアムでは、戦争の時に使った船や飛行機、人間魚雷などの模型を見ました。てつのくじら館では海上自衛隊の取り組みについての展示を見ました。海上自衛隊は今でも戦争で残された機雷の処理をしているそうです。

終戦から 76 年が経っているので戦争はとっくの昔に終わった事のように感じていましたが、今でも、海上自衛隊の方々が命がけで機雷処理を続けていると知って、戦争はまだ終わっていないと言えるのではないかと思います。

⑤ 最後に

私たちが大人になるころには戦争体験者がものすごく少なくなっている

かもしれません。それに伴って戦争の怖さも忘れられてしまう事のないように学んだり、伝えたりする必要性を実感しました。その機会を与えて頂いてありがとうございました。

平和記念資料館（原爆模型）



平和記念資料館



平和記念資料館



平和記念公園



爆心地



原爆ドーム



私は7月23日に、家族で広島平和記念公園へ行きました。①

今から地図をうつします。②

迷子になりそうなくらい歩道も公園も広かったです。これから見せる写真は、すべてこの公園内です。

最初の写真は、③広島平和記念資料館です。館内では、音声ガイドを借りてまわりました。

私が印象に残ったのは④「人かげの石」です。

これは、ばく心地から260mの銀行の入り口階段だんを切り出したものです。熱線でいっしゅんにして、人がいなくなりました。人のかげしか残っていませんほねがどのようにして消えたのかが不思議です。ばく風で飛んでいったのか、熱さでとけてなくなったのかも私には分かりません。せいべつが分からないので、いまだに、自分のい族かもとたずねてくる人がいるそうです。

資料館を出て、外の公園は、ヒロシマピースボランティアの方とまわりました。⑤⑥

有名な「原ばくドーム」があるのもこの公園です。⑦

これはひばくじゅ木のアオギリです。

幹の前側は、たてに深いわれ目があります。

広島は「75年間は緑は生えぬ」といわれていたのに、このアオギリは、1964年に芽を出しました。広島市民に希望と、勇気をあたえました。今では、広島市内の全ての小学校に、この木の二世が植えられているそうです。

⑧

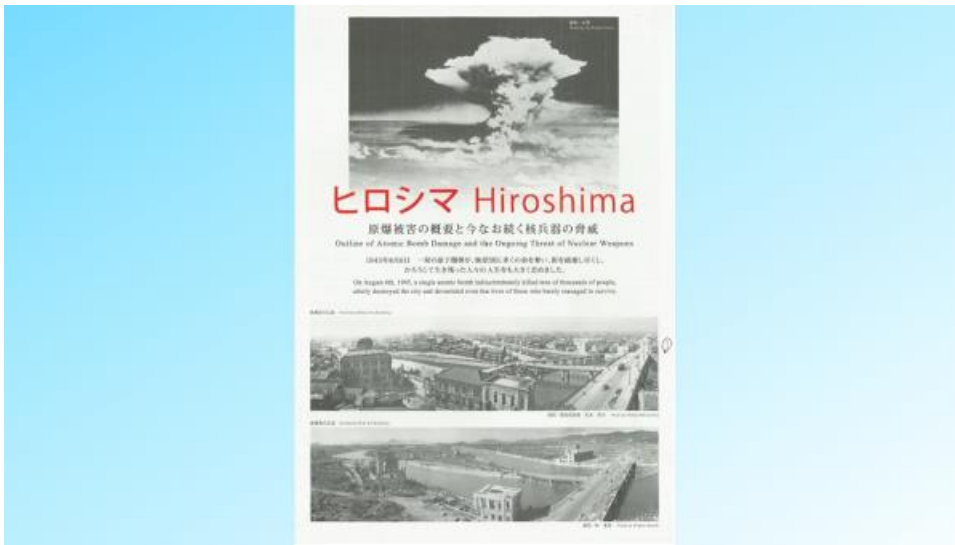
この写真は「原ばくの子の像」です。佐々木さだこさんは2才でひばくしましたが、小学校6年生のとき、リレーの選手になるほど元気に成長しました。しかし、6年生の終わりごろに、白血病としん断され12さいの短い生がいを終えました。さだ子さんが、病気の回復を願って折りづるを折り続けたそうです。今でも10トンの折りづるがとどくそうです。少しかざったあと再生紙にして広島市の小学校の卒業しょうしょにしているそうです。

今回の旅行でこわいことは分かったけれど、知ったところで今からできることはないと思いました。死んだ人を生き返せないから、なにもできなくてくやしいです。

でも、それなのに資料館があって、わざわざ多くの人が見にきていました。多くの人に見てもらうことで、少しでも未来を変えてほしいと願った人がいたのかなと思いました。⑨

最後の写真は「平和の灯」です。これは手の形をしています。見づらいですが、中から火が出ています。原子ばくだんは、世界で1万3000発あるそ

うです。すべての原子ばくだんがなくなった時に、火を消すことになっています。先は長いなと思いました。
これで発表を終わります。



①



②



③



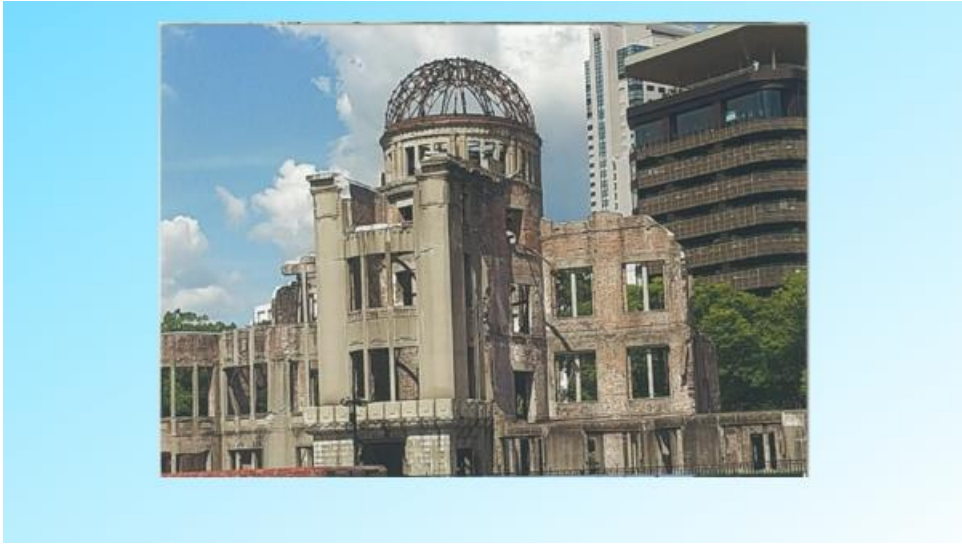
④



⑤



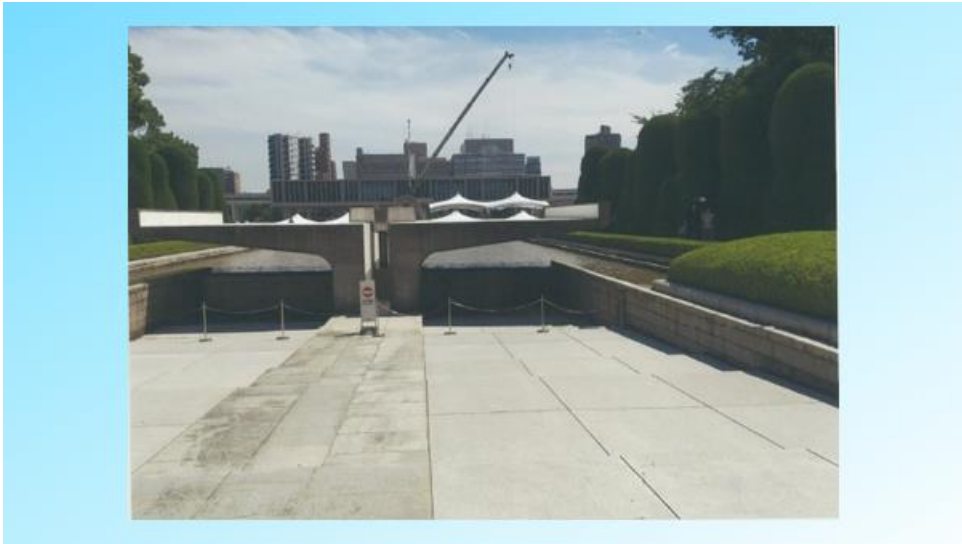
⑥



⑦



⑧



⑨

広島を訪問して学んだこと

私は、10月に広島へ行き、戦争に関することを学びました。

私も、学校の授業やテレビなどを通じて戦争について見たり聞いたりすることがあるので、かつて日本では大きな戦争があり、多くの犠牲があったことを知っています。

しかし、どうして戦争が起きたのか、そこで何か起きたのか、その時を生き残った人々がどんなにつらく苦しい経験をしたのか、よく知ることはありませんでした。いまの平和な時代を生活している私たちにとって戦争とはほど遠いものであり、その日常が当たり前になっています。

今回、広島の平和記念公園の資料館や原爆ドームを訪問し、実際にどのような悲惨で残酷なことが起きたのか、一瞬で十数万人の命を奪った原子爆弾の恐ろしさを知りました。

1945年8月6日の午前8時15分に、広島にひとつの原子爆弾が投下され、一瞬で多くの人々の命を奪いました。その時、一人ひとりに恐ろしく、苦しい出来事がおき、何もわからないまま命を落とした人、大きな傷を負いながら苦しみ命を落とした人、またその苦しむ姿を目の前にしても何もできず苦しみ、悲しんだその家族、友人がいたことを知りました。

平和記念資料館には、被爆した人々の遺品が展示されています。そのひとつひとつに、あの瞬間にどこで何をしていたのか、いかに苦しみもがいたのか、またその家族が懸命に探し見つけた記録などが記されていました。被爆した人の家族は、被爆後の焼け跡から何日間も必死に探し続け、焼け焦げた学生服や眼鏡などの一部でやっと見つけたそうです。やっと見つけてもその変わり果てた姿にどれだけ家族が悲しみ嘆いたか、その気持ちはとても想像できません。そして、家族を見つけることができなかつた方も大勢います。突然の悲しい別れや、最後までみつけてあげたかったという家族の想いはどんなにつらいものだったでしょう。

戦争では国家総動員で「お国のためにみんなが働かなければならない」と教えられました。戦争に反対すれば非国民と言われ本人もその家族も周りからひどい扱いをされました。平和の願いを言葉にし、行動することも許されなかつたのです。

戦争の末期になると、食べ物や身の回りの生活に必要なものも不足し、み

んながいつもおなかを空かせ、我慢の生活をしていました。私たちと同じくらいの年齢の子どもたちは十分に学校で勉強もできず、勉強しながら戦争のために働き、敵国と戦うための軍事訓練もありました。空襲をさけるために家族と遠く離れて暮らす子どももいました。

広島原爆でも、多くの子どもが建物疎開の作業中に被爆し家族に会えないまま亡くなったそうです。

戦時中はお国のために働き、我慢することが当たり前と教えられていました。でも、学校で学び、ともだちと遊び、家族といっしょに過ごす、将来に希望を持つ、そんな平和を望む気持ちは、今のわたしたちときっと同じであったと思います。

二度と戦争を繰り返さない、この言葉のおもみを改めて感じました。

いまなお、世界では核兵器を保有している国々があります。

再びあの残酷な出来事を繰り返さないため、地球上の誰ひとりとしてこのような残酷なことにならないよう、世界から核兵器をゼロにすることが必要です。

平和の実現のため、これからの私たちができること、すべきことを考えていきたいと思います。

二度と戦争を繰り返さないため、私はまず今回広島を訪れて知った戦争で起きたことや恐ろしさを自分の周りの大切な人へ伝えることから始めます。そして、世界の核兵器廃絶に決して無関心にならず行動することを約束します。







私は広島に行った事があるけれど、戦争と原爆の事を学ばずに帰ったのでこの機会に戦争の事を知るために視察に行きました。

初日は大和ミュージアムという戦艦などが展示されている所に行きました。

そこで戦争中の VTR を見ました。日本軍がアメリカ軍に負けそうな状態になると、人間魚雷という兵器を作り出しました。これは魚雷を相手の戦艦に正確に当てるために中につんである機械を操作して、人ごとばくはつさせるといふ恐ろしい兵器です。人と一緒にとばすなんて、残虐な兵器を生み出した日本が怖いのです。

そして、今まだ戦争は終わっていません。

大和ミュージアムの道路をはさんで向かい側には、てつのかじら館という海上自衛隊のしせつがありました。

てつのかじら館には戦争中にばらまかれた機雷の話がありました。

海上自衛隊によって、除きよされたため、機雷は戦争時よりも少なくなっているようですが、まだ日本の周りから完全になくなった訳ではないので、76年経った今もおびえながら暮らさなければいけないのです。

翌日は平和記念資料館に行きました。

そこでは戦争で亡くなった人の遺品や資料が展示されていました。

ビリビリにひきさけたもんぺや学生服や中身が入ったまま炭と化してしまった弁当箱、溶けたガラスビン、影だけ残して消えてしまった人々、他にも止まったその時間を遺品達は物語っていました。

戦争をしていた日本だけが悪いとは思いません。しかし、戦争で使われた、たった一発の原爆が多くの人々の未来をうばったことに変わりはないのです。

次に伝承者の方に、当時の日本では「今、日本がしている戦争は正しい、これは正義の戦争だ。」と子供に教えられていた話を聞きました。これに背いた生徒は、たいほされてしまったそうです。

また、被爆者は「フラフラ病」、「原爆症がうつる」と差別されていたそうです。

何も事情を知らない人がそういうことを言うのは、いじめと同じだと思います。

そして、今回の目的の親を原爆で亡くした子ども達はどのようにして生きていたのか知りました。原爆が落とされて様々な場所にいた人達は親せきに預かれる人もいればそうでない状況の人もいます。そういう子供達は毎日、くつみがきなどをして生きていたそうです。

こんなひどい状況が、今日も続いている国が世界にはたくさんあります。

たとえば、シリアという国は子供を弾除けとして使ったり、ストレス発散の道具として使ったりしているそうです。

子供達は大人達から道具としてしか見られていないことがひどいと思いました。

私は、今の日本という平和な暮らしを当たり前のように考えています。

しかし、私たちの先祖は、戦争や差別と戦ってきた人たちです。

76年前に先祖の身に起こったことを知りました。

戦争はだれかをきずつけ合います。

だから、1人1人が他人を想いやる心を持てば、戦争はなくなっていくと思います。





—戦争— それは、僕たち私たちじゃ想像できないほど辛く、恐ろしいものでした。

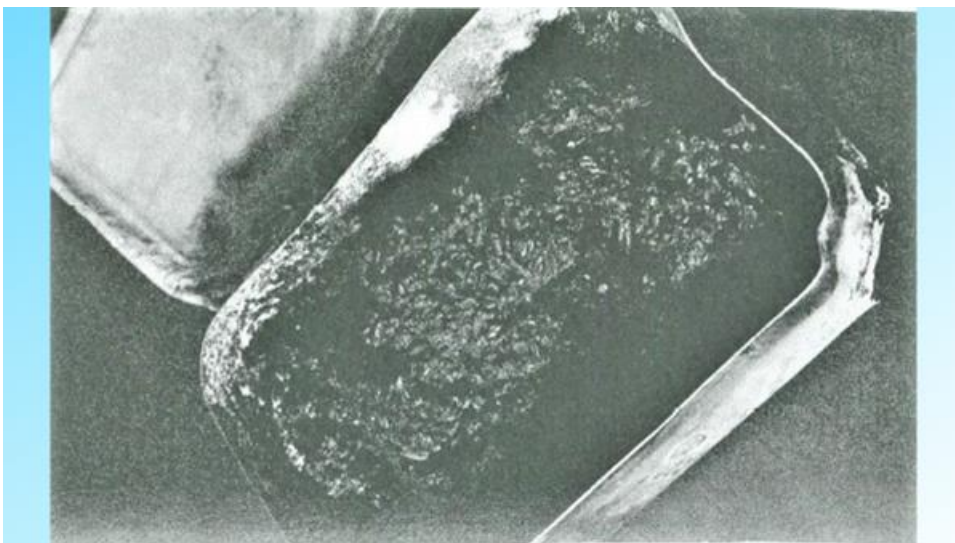
1931年の満州事変を発端に1937年に日中戦争が始まり、それが発展し、1941年、日本が真珠湾を攻撃したのをきっかけに太平洋戦争を日本は始めてしまいました。当時の人たちのほとんどは、戦争に賛成していました。戦争に反対していた国民はほんのわずかに過ぎませんでした。戦争はどんどん激しいものになっていきました。

1945年8月6日のあの日も普通の夏の暑さが厳しい何ともない一日が始まっていました。その傍らアメリカの原子爆弾を積んだ爆撃機が広島に向けて飛んできていました。そして8時15分広島の上空に全てを破滅させるたった一つの原子爆弾が投下されました。その後すぐに人々は強い光を浴びたかと思うと家ごと爆風でとばされました。気が付くと、もうまさに地獄絵図です。辺り一面焼け野原、またあちこちで火事がそれでも起きている。そして、まわりには、洋服が溶け、皮膚がただれ、ガラス片が体中にささっている人、完全に火傷をし、もう意識がない人などとにかく僕たちの想像よりも恐ろしい世界が広がっていました。その後、何人も人が命を落としました。その中には、赤ちゃんや子供、外国人の人たちも含まれていました。そして、恐怖はまだ続きました。3日後に長崎にも原子爆弾が投下されました。広島恐怖がもう一度繰り返されたのです。日本は、ここでやっと諦めたのか、降伏をアメリカ側に8月15日に行いました。

戦争が終わったといっても広島、長崎の人たちの恐怖は終わりではありませんでした。後遺症で何人も命を落としていったのです。しかも、それは数日ではなく、十年、二十年五十年そして現在でも後遺症で苦しんでいる人たちが沢山います。いつ発症するか分からないそれはまさに永遠に恐怖を感じます。核兵器、戦争の恐ろしさが身に染みます。戦争は、人々の命、生活、笑顔、人生までも奪ってしまいます。今この時間にも世界のあちこちで争いが起きています。この争いを止めることや戦争自体を起こさない、起こさせない事が大切です。また、日本は世界唯一の被爆国です。それにも関わらず、いまだに日本は核兵器禁止条約に批准つまり賛成していません。もう二度と核兵器が使用されないためにも政府は一刻でも早く条約に批准する義務があります。

これらを通して戦争は何のメリットもないあってはならないものだと思います。また、一番怖いのは戦争について何も知らない事です。今、戦争を全く知らない世代が増えています。戦争経験者が減ってしまっている今、学校などの教育の場などで平和についてもっと知っていく場を設けること

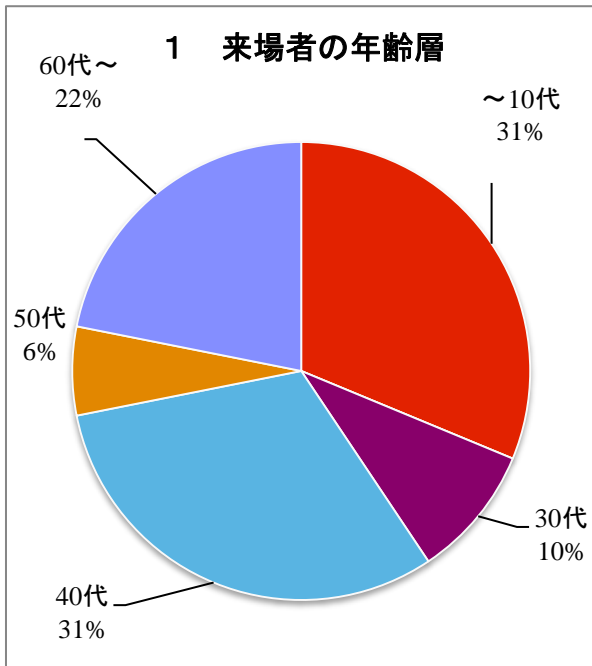
が必要だと思いました。未来を生きる子供たち、そしてそれをつなぐ大人がこれから戦争や争い、不公平がない誰もが生きやすい世界を作っていく必要があると強く思います。





来場者アンケート

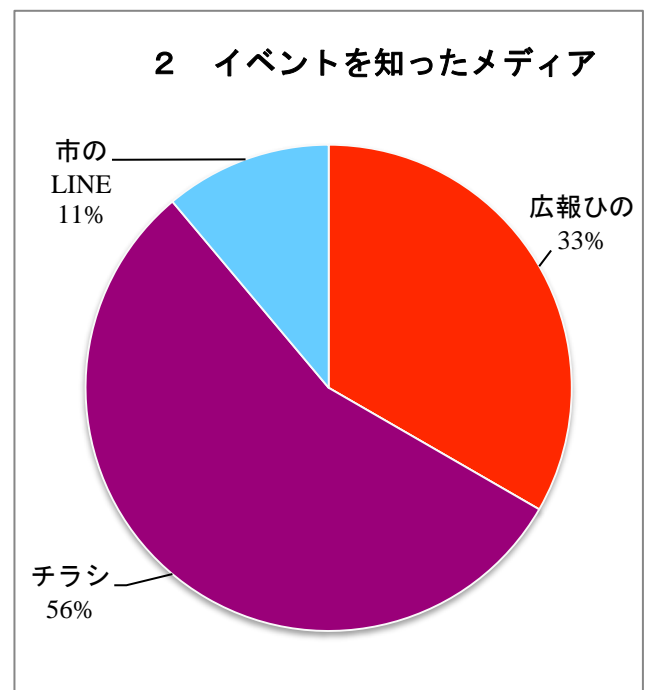
(1) 御来場者の年齢層



幅広い年齢の方のご参加がありました。今後もあらゆる世代の方に来ていただけるようにしていきたいと思います。

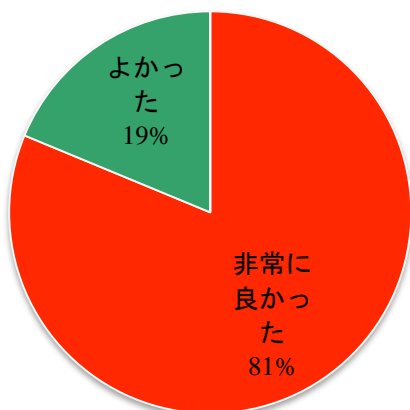
(2) イベントを知ったメディア

「広報ひの」と学校を通じて配布したチラシから知った方が多くを占めています。最近導入された、市のLINEを見てきた方も一定数おられました。



(3) 感想

3- (1) 平和派遣事業報告会

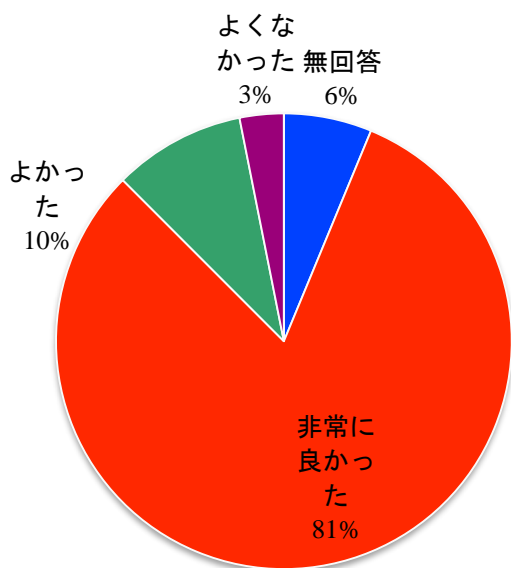


参加された多くの方が「よかった」、「非常によかった」と回答されており、好評でした。

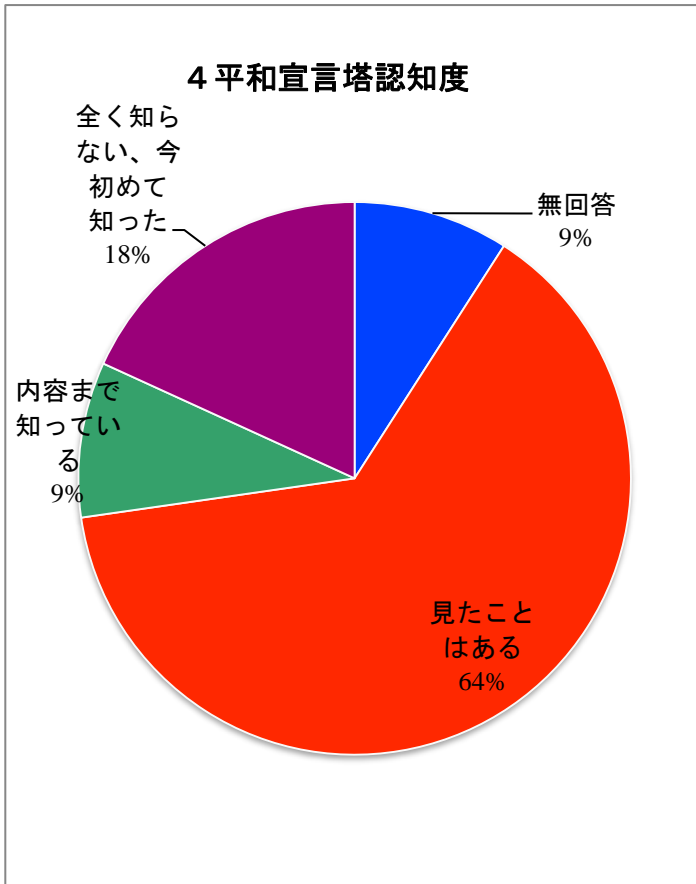
自由記載の欄では、「まだ若い皆さまが戦争のおそろしさを伝えていきたいと話していたのを見て、大変感動しました」「本やテレビでは絶対に知ることができない被爆者の生の声が直接心に届いたと思います」などのお声をいただきました。

「戦争について知ることができる講演会などは、今後も実施してほしい」とのお声もいただいております。今後も継続してまいりたいと考えています。

3- (2) 平和講話会



(4) 平和宣言塔認知度

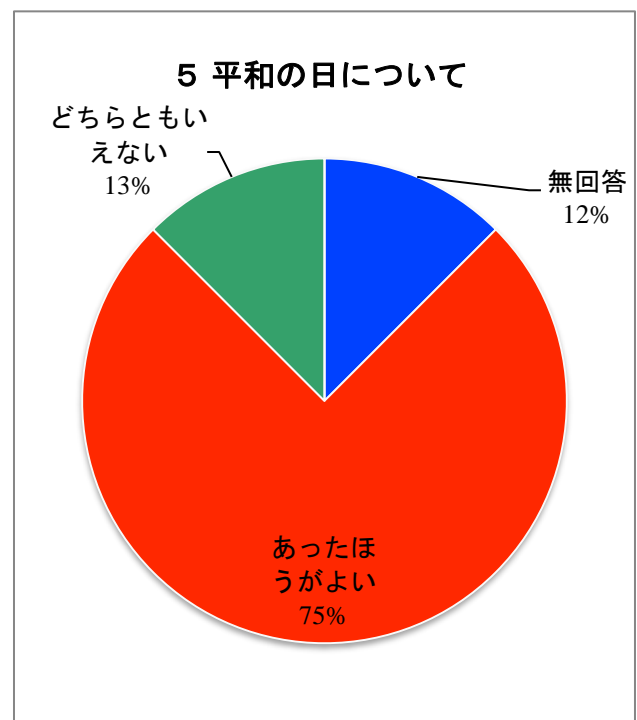


「見たことはある」は6割強を占めており、宣言自体の認知には一定の効果があることがわかります。一方、2割近くが「全く知らない」、内容まで知っている方はおおよそ1割にとどまるなど、周知については今後も共通した課題であり、より多くの方に興味を持っていただける方法を検討してまいります。

(5) 平和の日について

日野市独自の「平和の日」については、「どちらともいえない」及び無回答をあわせて25%、「あったほうがよい」は75%を占めています。

「平和の日」の策定やその方法について、今後も皆さまのお声をうかがいながら、検討をすすめてまいります。



日野市民憲章／日野市核兵器廃絶・平和都市宣言

日野市民憲章

昭和 58 年 1 月 1 日制定

わたくしたち日野市民は、多摩川・浅川につづく平野と丘陵の自然環境に恵まれたこのまちを、生活の中のふるさとと考へ、みんなのしあわせのためにこの市民憲章を定めます。

- 1 元気に働き いきいきとして 心ゆたかなまちをつくりましょう
- 1 手をつなぎ ともに健康で 明るいまちをつくりましょう
- 1 自然を守り 緑と清流と太陽の 美しいまちをつくりましょう
- 1 人を大切にし 弱い人にも子どもにも 思いやりのあるまちをつくりましょう
- 1 文化をつちかい うるおいのある 平和なまちをつくりましょう

日野市核兵器廃絶・平和都市宣言

昭和 57 年 10 月 8 日議決

巨大な量の核兵器は、米ソ両国の戦略兵器制限交渉などをもつてしても、もはやその拡大を止められない事態となつている。

ひとたび核兵器が使用されることになれば、その結果は全人類とその文明の滅亡であることはいうまでもない。

日野市は、核兵器が地球上から姿を消す日まで、その廃絶を叫び、平和が市民生活の基本であるとの理念のもとに、ここに日野市が核兵器廃絶・平和都市であることを宣言する。

令和3年度日野市平和事業 平和派遣事業成果報告書<沖縄・長崎・広島>

令和4年3月 発行

発行 日野市企画部平和と人権課
東京都日野市多摩平2丁目9番地
多摩平の森ふれあい館
電話 (042) 584-2733

